

# 今を未来に

## こんなことがありました。

保々のつどいの中の校長挨拶でも、また、学校だより前号の最後にも、「何か学校で起っている」ということが伝わっているかと思っています。「誰もが幸せになるために」という保々のつどいでの子どもたちからのメッセージに応えるためにも、全ての保護者・児童が知ってもらった方がよいと判断し、該当する児童への指導がほぼ終わった今日、お伝えすることにしました。1年生から4年生の学級でも、この学校だよりをもとにして、今回の件と普段の生活の振り返りをしました。

## 話が出てきたのは、6年生の学級会からでした。

6年生は1月20日(土)に、保護者の方の参観をお断りした上で、松村元樹さんに講演をしてもらいました。「なかまを大切にできているか?」といった視点で、子どもたちに投げかけてもらいました。その中で、「100%の自分が出せているか?」と尋ねられた時、100%で手を挙げた子は一人もいませんでした。多くの子が60~80%でしたが、20%、5%という子もいたそうです。元樹さんの話を聞くうちに、今まで言いたかったけど言えなかったことを、本当は聞きたかったけど遠慮して聞けなかったこと、気づいてほしかったけど気づいてもらえなかったことなどを、子どもたちはどんどん話していったそうです。

どの子も息を飲んで聞き入り、張り詰めた中にもあたたかな空気が感じられた時間となったそうです。聞いているうちに涙が止まらないといった様子の子が何人もいたそうです。その様子を見て元樹さんからは「言わなかったのじゃなくて、言えなかったんやな。聞いてくれるまわりになったから、今、言える人がいたんやな。」と、子どもたちに返してもらったそうです。担任も、そんな子どもたちの姿を見て、人間のあたたかさを感じた素敵な姿だと話していました。

ところが、時を同じくして、正反対の姿が今回出てきたのです。6年生のクラスで、2月1日にとある問題行動があり、そのことについて学級で詳しく話を聞いていた時でした。「今回のこの行動につながるような自分の中で反省すべきことって、どんなことがあるの?」と担任が尋ねると「座っている姿勢が悪い」「提出物を出していないこと」「廊下で追いかけてっこをしていること」などと、本人たちが答えていた時でした。クラスのなかまから「自分で言ってほしかったけど(本人たちが言わないから…)授業中おかし食べているよね」と、発言をする子がいて、今回の件が発覚してきました。6年生は急遽学年集会を行い、9人の子がすぐにそのことを認め、認めてからは隠すことなく話すことができたようです。行動そのものは褒められませんが、全てを話せたことについては、元樹さんの話から何かを感じとっていた子どもたちだったのだなあと、改めて感じる様子だったそうです。その後、6年生は学年集会で「おかしを授業中に食べるようになってしまった予兆」について話し合い、登下校、授業中、休み時間、放課後、修学旅行中などに起っていたことを話し合ったそうです。9人の行動は64人全員の行動とつながっていたことを確認し、残り30日ほどをどのように過ごすのか、確かめ合いました。

## 5年生でも同じことが起こっていました。

6年生がすべてを話す中で、5年生の子どもの中で複数の子が同じことをしていることがわかり、その日はまず名前があがった子どもたちに話を聞いていきました。素直に認めて、思い出すことができることは全て話ができたといい子（実は全てではなかったのですが）と、なかなか自分から話ができなかった子に5年生はわかれました。最後まで言えなかった子は、やはり「家の人に心配をかけたくなかった。おこられたくなかった」「おこられるのがこわかった」という思いだったようです。その気持ちは認めつつも、なぜ全てが言えなかったのかを考えていく中で、前述したような話し合いを学年でしてきた6年生に対して、親や担任に気づかれなければそのままにしてこられた5年生・気づいていた子も誰に気遣ってか言ってこなかった5年生、無関心な5年生、そして、似たような問題行動が今までにもあったにも関わらず、すべてを出し切るような話し合いを仕組めてこられなかった学校側の課題が、浮き彫りになったと考えています。

2月1日（木）に事実確認をする中で、6年生とのつながりがない子でおかしを食べている子が5年生の中にいることがわかり、2日（金）も3日（土曜授業の日）も、学年集会や保々のつどいの発表の前後にも聞き取りを行い、土曜授業の放課後も保護者の方に学校へ来ていただいて、前述してきたような経緯を話させてもらいました。そして、土曜日に話を聞く中で、さらにもっと食べている子がいることがわかってきたので、5日（月）には朝から「まだ言えていない人がいるようだ」と担任から伝え、「自分から言ってこられることを大切にしたいから、30分休みまで待ちます」として、自分から言えることの大切さを考えて欲しいという指導方針で待つことにしました。結果、さらに数人の子が担任まで言ってきましたが、それでもまだ言いに来られない人がいて、学年集会でもう一度子どもたちに問いかけ、やっとおかしを食べたであろうと名前が挙がってきた全員から話が聞けました。

### 「おかしを食べただけでしょって、思ってしまった。でも・・・。」

今回の件で、学校に来ていただいた保護者の方からは、「はじめ話を聞いた時は、正直おかしを食べただけでしょって、思ってしまった。でも、そうではなかったのですね。」と、お子さんを前にして、お気持ちを話してくださった方もあります。でも、家に帰ってから「ばれやんようにせな・・・」とお家の方に言われたという子もあったようです。それは、おそらくお子さんの反省している姿から、そう言っても二度としないであろうという思いが持てたために言われたのだとは思いますが、どうでしょうか。

今回の件を通して、5年生と6年生の子どもたちの違いや、知っていても言わなかったという子どもの多さから、私たち学校の側にも、大いに反省すべき点があったと思い、全ての保護者の方にお伝えすべきと判断をしました。また、おそらく下級生の中にも5・6年生がおかしを食べている姿を見ていた子もいたと思います。そうした子たちが「言ったらあかんこと」と思って、まだ心にしまっているかもしれないと思い、子どもたちにもこの学校だよりを使って、全校で話をした方がよいと判断をしました。

今回の件について十分反省したのに、このように伝えられたことについて不本意に思われる保護者の方がみえることも覚悟の上でお伝えしました。保々のつどいの時の子どもたちの言葉「だれもが幸せになれるように」というメッセージが届いていることを信じ、誰もが安心して学校生活をこれからも送ることができるようにと思って、お伝えしました。